

本の紹介

『地域おこし協力隊は何をおこしているのか？ 移住の理想と現実』

著者：田口太郎（徳島大学大学院教授）

移住者と地域住民がタッグを組んで、地域をおこすために必要なことは？

近年SNSでの炎上でニュースになることも少なくない「地域おこし協力隊」。

地域おこし協力隊は、都市地域から人口減少や高齢化等の進捗が著しい地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。（総務省ホームページより）

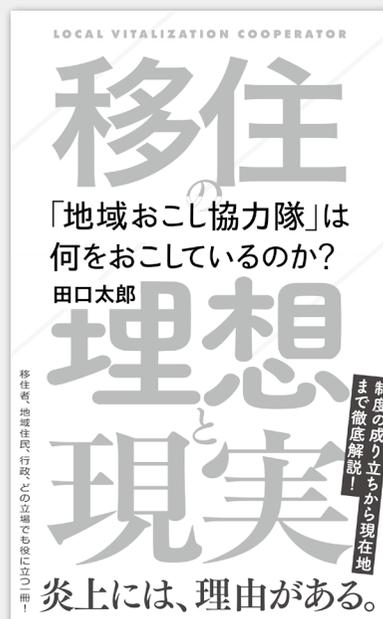
この取り組みにおいて、地域住民と協力隊員のあいだでトラブルが多発しています。

もちろん問題ばかりではなく各地で活躍する事例は多いことから、政府は2026年までに協力隊を1万人に増やすという目標を掲げています。どうしたら急拡大している地域おこし協力隊を本当に地域のための制度として活用することができるのか。そもそも地域おこして何を“おこす”のか？ この制度に詳しく、協力隊員向け研修プログラムの企画・実施をしてきた著者が、都市と地方の両視点から語ります。

著者の田口太郎さんは、首都圏で生まれ育ち、現在は徳島大学大学院教授として働き、徳島県下の小規模集落に移住し生活されています。都市と地方、どちらの視点も確立している研究者だからこそその思考が詰まった一冊です。

協力隊員、地域住民、行政……それぞれの立場で、それぞれの思いがあり、奮闘の歴史があります。どの立場でも、読めば必ず役に立つはず。

立場を超えてお互いを理解し、タッグを組んで地域を“おこしていく”ために必要な知識や考え方を詰め込んだ一冊です。ぜひお手に取っていただくと幸いです。（星海社）



■本の購入方法

『地域おこし協力隊は何をおこしているのか？ 移住の理想と現実』（刊行：星海社）

- ・各地の書店での購入、注文
- ・Amazonなどのオンライン書店での購入
- ・電子書籍版はKindle、ブックウォーカー、dブックにて購入可能